

Unexamined Utility Model Publication No.H5-62227

Date of Publication: 08-20-93

Application No. H03-57879

Date of Application: 06-28-91

Applicant: Unicharm Corporation

Title of the Invention: An article for wearing

Abstract: An article for wearing in which an absorbent pad easily fits the crotch part of a human body. Inside of the article, there is provided a strip elastic support member extending from a front body to back body in such a manner that the elastic member is adhered to the article by joining only at both ends thereof. As a result, the shrinkage force of the strip elastic support member has the absorbent pad fit the crotch part of a human body.

This Page Blank (uspto)

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-62227

(43)公開日 平成5年(1993)8月20日

(51)IntCl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 F 13/15		7108-4C		
13/16		2119-3B	A 4 1 B 13/ 02	K

審査請求 未請求 請求項の数4(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-57879

(22)出願日 平成3年(1991)6月28日

(71)出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県川之江市金生町下分182番地

(72)考案者 藤岡 義久

香川県三豊郡仁尾町大字仁尾辛29-1

(74)代理人 弁理士 白浜 吉治

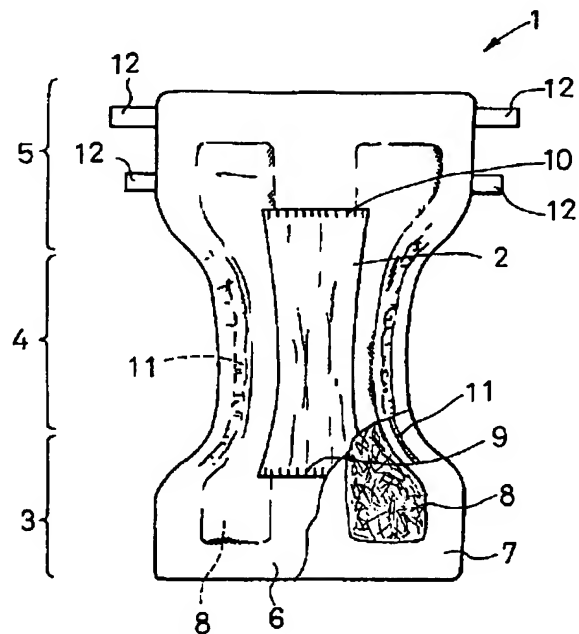
(54)【考案の名称】 着用物品

(57)【要約】

【目的】 吸収性パッドを股間部に密着させることが容易な着用物品の提供。

【構成】 着用物品の内側に、前身頃から後身頃にかけて帯状弾性保持部材を伸張下に、その両端のみを接合することにより取り付ける。

【効果】 帯状弾性保持部材の収縮力により、その上に当てがった吸収性パッドを股間部に密着させることができる。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】少なくとも防漏シートを有する体液処理用の着用物品であって、前記着用物品の内側に前身頃から後身頃にかけて伸張下にある带状弾性保持部材がその両端を接合して取り付けであることを特徴とする前記着用物品。

【請求項2】前記带状弾性保持部材の中央域よりも外側域の収縮力を大きくしてある請求項1記載の着用物品。

【請求項3】前記带状弾性保持部材が並行に配列した複数の部材からなる請求項1記載の着用物品。

【請求項4】前記並行に配列した複数の部材は、前記配列の中央域の部材よりも外側域の部材の収縮力を大きくしてある請求項3記載の着用物品。

【図面の簡単な説明】

【図1】伸展したおむつの内側を一部切り欠いて示す平*

* 面図。

【図2】図1のおむつが自然状態に置かれたときの平面図。

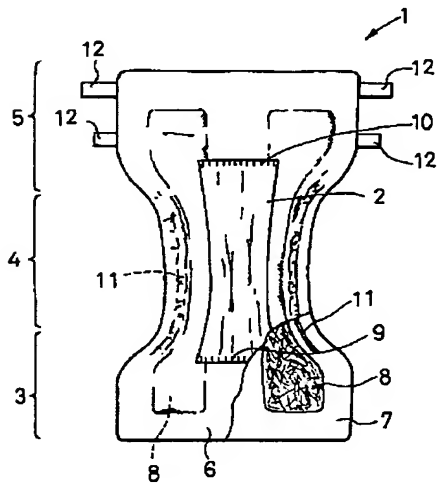
【図3】おむつの着用状態を示す断面図。

【図4】带状弾性保持部材が複数の部材からなるおむつの平面図。

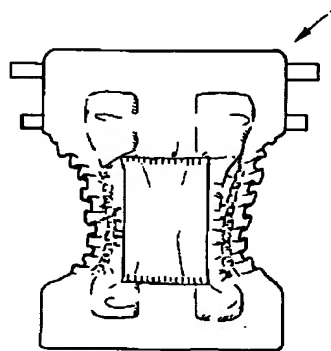
【符号の説明】

- | | |
|--------|-----------|
| 1 | 着用物品（おむつ） |
| 2, 2 2 | 带状弾性保持部材 |
| 10 | 前身頃 |
| 4 | 股下区域 |
| 5 | 後身頃 |
| 7 | 防漏シート |
| A, B | 部材 |

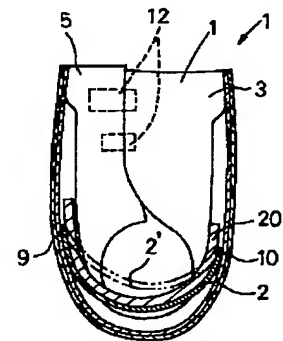
【図1】



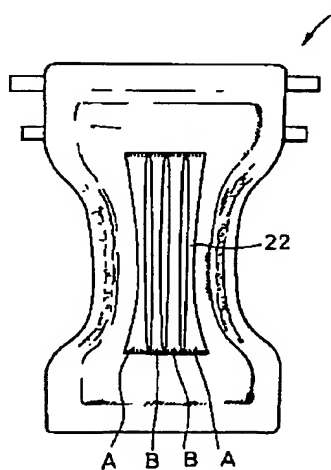
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、使い捨てのおむつ、おむつカバー、失禁用パンツ、生理用ショーツ等の着用物品に関する。

【0002】**【従来技術】**

体液を吸収させるための吸収性パッドと、使い捨ておむつ、おむつカバー、失禁用パンツ、生理用ショーツ等の着用物品とを別々に用意し、この吸収性パッドを着用物品の股下部位に当てがって使用する体液処理手段は周知である。この吸収性パッドは着用物品の所定部位に安定して保持されることが望ましい。それには、例えば吸収性パッドを粘着剤により剥離自在に着用物品に取り付けたり、または吸収性パッドを身体に圧接させるため着用物品の全域もしくは中央域を伸縮可能にしておいたりする慣用技術がある。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

このように単体の吸収性パッドを使用し、体液漏れが生じないように体液を吸収処理するためには、吸収性パッドを所定部位に保持することに加え、これを身体に常に密着させておくことが望ましい。前記従来技術の一つによれば、この問題は着用物品を身体にしっかりと密着させて着用することにより一応解決することができる。しかし、密着させたはずの着用物品が、身体からずり下がるとか、緩むことがあると吸収性パッドが身体から離れてしまうという欠点があった。

【0004】

一方、おむつによる圧接で吸収性パッドの身体への密着をよくするほど、おむつ内部における空気の流通が減少し、これが蒸れの原因の一つともなっていた。

【0005】

そこで、この考案の課題は、着用物品の内側に前身頃から後身頃にかけて帯状弾性保持部材を伸張下に取り付けることにより、前記欠点を解決することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

この考案が前記課題を解決するために要旨とするところは以下のとおりである。

【0007】

この考案は、少なくとも防漏シートを有する体液処理用の着用物品を前提にしている。

【0008】

かかる着用物品は、その内側に前身頃から後身頃にかけて帯状弾性保持部材を伸張下に、その両端のみを接合して取り付けである。

【0009】

この考案の好ましい実施態様においては、前記帯状弾性保持部材が、その中央域よりも外側域の収縮力を大きくしてある。また前記帯状弾性保持部材は、並行に配列した複数の部材からなり、また、他の好ましい実施態様においては、かかる複数の部材は前記配列の中央域の部材よりも外側域の部材の収縮力を大きくしてある。

【0010】

【作用】

上記のように構成したこの考案に係る着用物品は、これを着用したときに前身頃から後身頃にかけて股間部をまたぐように帯状弾性保持部材が収縮して股間部に圧接する。この圧接を利用すると帯状弾性保持部材の上に当てがった吸収性パッドを股間部に圧接することができる。

【0011】

帯状弾性保持部材は中央域よりも外側域の収縮力を大きくすることにより、吸収性パッドは左右脚周りで特に密着が良好になる。

【0012】

帯状弾性保持部材を並行配列した複数の部材とすると、この部材を複雑な股間部形状になじませることが容易になる。

【0013】

【実施例】

この考案の詳細を実施例に基づいて説明すると以下のとおりである。

【0014】

図1及び2は、この考案に係る着用物品の一例である使い捨ておむつ1について、その内側を示す平面図である。図1でおむつ1は平らに伸展した状態にあり、かつ、その一部が切り欠いてある。図2は、図1のおむつ1が自然状態にあるときの様子を示す。

【0015】

図1において、おむつ1は長手方向で見ると前身頃3、股下区域4、後身頃5を有する。おむつ1は厚み方向で見ると透水性の表面シート6、裏面を構成する不透水性の防漏シート7、これら両者の間に介在する吸収体8等で構成し、表面シート6の上には伸張下にある帯状弾性保持部材2が両端9、10のみを接合して取り付けられている。帯状弾性保持部材2は前身頃3から後身頃5にかけて両端9、10間で伸縮自在である。この他におむつ1は左右脚周りに表面シート6および／または防漏シート7に伸張下に貼着した脚周り弾性部材11、後身頃において防漏シート7に貼着したファスナーテープ12等を有する。おむつ1を自然な状態に置くと帯状弾性保持部材2、脚周り弾性部材11が収縮し、図2の状態になる。

【0016】

図3は、おむつ1の着用状態を示す。ただし、おむつ1はその長手方向中心線に沿う断面で示し、着用者の図示が省略してある。帯状弾性保持部材2の上には吸収性パッド20を当てがい、この吸収性パッド20を股間部に圧接してある。吸収性パッド20はおむつ1とは別個に、単体で用意されるものである。体液を吸収して汚れた吸収性パッド20は、おむつ1とは別に単体で廃棄することができ、一方おむつ1は繰り返し使用が可能である。おむつ1は前身頃3と後身頃5とを腰周りで重ね合わせファスナーテープ12により止めてある。

【0017】

図3に示したように、おむつ1を着用すると、股間部に当接した帯状弾性保持部材2がその形状に倣って変形し、接合端9、10間には収縮力が作用する。従

って吸収性パッド20が股間部によく密着する。その後にもし着用したおむつ1が多少ずり下がれば、帯状弾性保持部材2は一例として仮想線22の位置に変化する。しかしこのようになっても吸収性パッド20を引き続き前記の収縮により股間部に密着させておくことができる。

【0018】

図4は、4本の細い部材A、Bからなる帯状弾性保持部材22とし、これらを並行に配列した例を示す。このように比較的細い複数の部材からなる帯状弾性保持部材22を使用すると、吸収性パッド20を複雑な形状の股間になじませることが容易になる。また、配列の中央域の部材Bに比べ、外側域に配した部材Aの収縮力を強くしておくことができる。このようにすると排泄物を直接受け止める吸収性パッド20の縦方向中心線沿いでは身体への密着力が弱く、脚周り近傍においてはその密着力を強くすることができる。従って局部の圧迫感を柔らげて排泄を容易にし、しかも横方向から体液漏れを効果的に防ぐことができる。こうした構成は、図1に示す帯状弾性保持部材2にも適用することができる。即ち、この場合には、収縮力を強くする外側域を内側へ折り重ね、その少なくとも長さ方向対向端部を接合すればよい。複数本の部材A、Bを用いた場合には、それらの両側におけるそれぞれ2本の部材で吸収性パッド20の両側部を挟持することができ、帯状弾性保持部材2の両側を内側へ折り重ねた場合には、それらにポケットが形成されるから、これらのポケットに吸収性パッド20の両側部をそれぞれ挿入して挟持させることもできる。

【0019】

このような帯状弾性保持部材2、22は非伸縮性の表面シート6や防漏シート7からなる着用物品と組み合わせて使用すると、その吸収性パッド20を股間部に密着させるのに特に有効である。

【0020】

おむつ1の構成部材についていえば、帯状弾性保持部材2、22は極力摩擦係数の大きい弾性材料を使用することが好ましい。摩擦係数が大きいほど吸収性パッド20を所定部位に保持することが容易になる。具体的には天然ゴム、合成ゴム、各種エラストマーからなるシート、フィルム、繊維状物が好適である。表面

シート6には不織布や開孔プラスチックフィルム、防漏シート7にはポリエチレンフィルム、その他のプラスチックフィルム及びゴムシート等を使用することができる。吸収体8には、例えば粉碎パルプと吸水ポリマー粉とを混合した賦型品を使用する。脚周り弾性部材11、及びファスナーテープ12は公知の材料を適宜利用すればよい。吸収性パッド20は、例えば粉碎パルプと高吸水性ポリマー粉とを混合した賦型品に透水性不織布の被覆と不透水性プラスチックフィルムの裏打ちとを施したものを使用することができる。帯状弾性保持部材2、22の表面シート6への接合にはホットメルト接着剤を含む各種接着剤や熱融着の手法を利用することができる。その他各部材の互いの接合は慣用手段を利用すればよい。

【0021】

なお、図1においては二つの吸収体8を左右対称に配置し、それらの中間には吸収体を設けていない例を示した。吸収性パッド20が十分な吸収力を有していると、おむつ1が吸収体8を含まなくてもよい場合がある。しかし、思わぬ横漏れがあることにそなえ、図1のおむつ1には側縁に沿って吸収体8が設けてある。この例で吸収体8を左右に2分して配置したのは材料節約と吸収性パッド20による着用状態の不体裁な隆出などを防ぐためである。吸収体8は二分することなくその中央域を肉薄に形成したり、適宜所要の部位に設けたりすることもできる。また表面シート6に接合した帯状弾性保持部材2、22は、おむつ1の構成の如何によって、例えば表面シート6および／または吸収体8を有しない場合には、表面シート6または防漏シート7に直接に接合することができる。

【0022】

なお、開示してないが、吸収性パッド20としては、その両側部に肉薄の吸収性材料が位置しているか、またはそれが位置していないフラップが形成されているものが用いられることもある。

【0023】

【考案の効果】

前身頃から後身頃にかけて設けた帯状弾性保持部材の収縮力により、吸収性パッドを股間部に密着させることができる。かかる密着はおむつが多少ずり下がっ

ても維持することができる。

【0024】

しかも、かかる着用状態下では、吸収性パッドの底面とこれが対向するおむつの内面との間に空隙が生じるから、おむつ内に蒸れが生じることが少ない。ちなみに、こうした空隙が生じる点において、おむつの全域または中央域に弾性部材を直接に取り付けたものと顕著な差異がある。

【0025】

複数の部材からなる帯状弾性部材を使用することにより、股間の複雑な形状にも吸収性パッドを密着させることが容易になる。

【0026】

帯状弾性保持部材の収縮力に程度の差をつけると局部の圧迫感を柔らげ、かつ、脚周りからの体液漏れを効果的に防止できる。